

高等学校の学科改編について

高校教育課

1 改編理由

- (1) 社会の大きな変化の中で、将来を見通した時に、新たな学科を設置することにより、各校における時代に対応した主体的、対話的で深い学びを行いたい。
- (2) (1)の趣旨に沿って平成 29 年度については、下記の2校から学科改編の要望があり、いずれも妥当なもの認められるので、長野県立高等学校管理規則第2条に定める学科の改編を行うものである。

なお、この内容については来年度の生徒募集に向けて中学生に説明を行っていくこととする。

2 実施時期

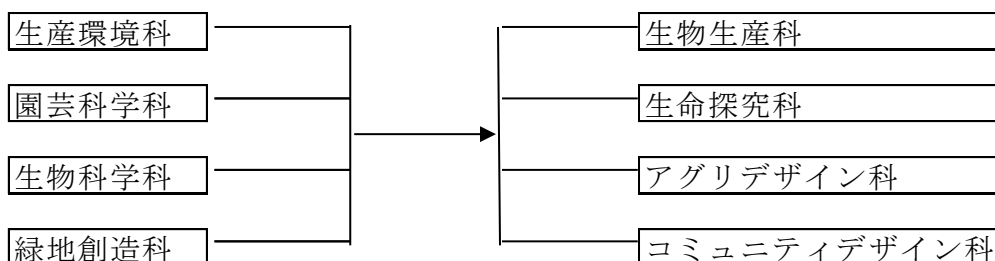
平成 30 年 4 月 1 日

3 改編内容

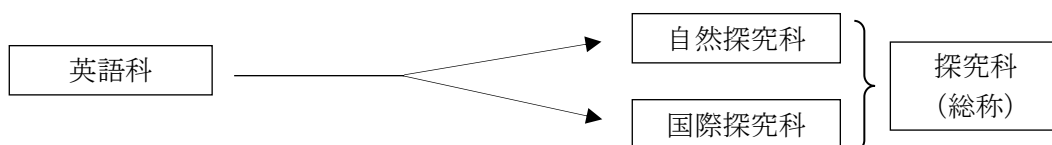
改編前

改編後

(1) 上伊那農業高等学校



(2) 松本県ヶ丘高等学校



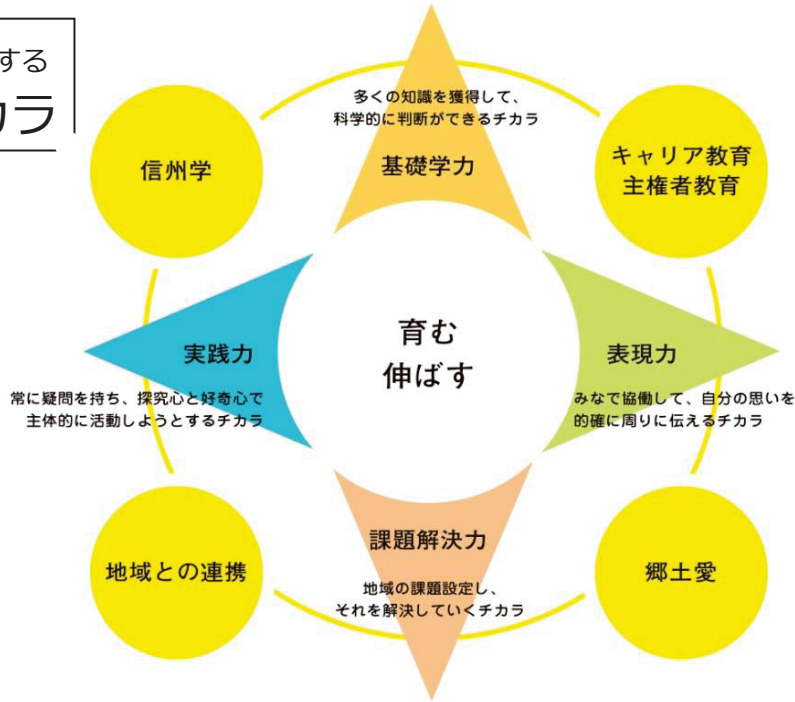
学校名	新学科名	新学科の概要
上伊那農業	生物生産科 及び 生命探究科 及び アグリデザイン科 及び コミュニティデザイン科	<p>1 改編理由</p> <p>① これまで農業の情勢や地域の要請、生徒の実態や進路に応じて学科の設置を行い、地域に根ざした農業高校としてスペシャリストを養成し、地域農業の発展に貢献してきたが、さらに多様な生徒の希望に合わせて学びの体系を整え、主体的・対話的で深い学びを指向し、平成34年度から実施予定の新教育課程に対応するために全学科改編する。</p> <p>現在の4学科（生産環境科・園芸科学科・生物科学科・緑地創造科）を新たな4学科（生物生産科・生命探究科・アグリデザイン科・コミュニティデザイン科）に改編する。また、2年次からの10コース制も8コース制に改編する。</p> <p>改編により、探究的な学びをとおしてグローバルな視点を持った人材、生涯にわたって農業学習に取り組むことができる人材育成ができるものと考えられる。また、本県の進める「学びの改革基本構想」の専門高校の理念にも合致する。</p> <p>② 将来の農業教育を見据えたうえで、栽培分野や開設講座を時代の要請に適したものとし、学びの体系を整理し直すことにより、柔軟な教育課程を編成し、多様な進路実現が可能になるようにしたい。</p> <p>2 学科の内容</p> <p>(1) 学科の目標</p> <p>① 生物生産科</p> <p>「野菜コース」と「果樹コース」とも、野菜・果樹を中心とした園芸作物の栽培のみならず生産・販売の実践をとおして、地域農業や地域産業を担うために必要な資質や能力を身につけ、伊那谷で活躍できる人材育成をめざす。</p> <p>② 生命探究科</p> <p>「動物コース」では、家畜や小動物の飼育と活用、野生動物の生態を実践的に学ぶことをとおして、地域農業や地域産業を担うために必要な資質や能力を身につけ、地域資源を活かして環境を守り、伊那谷で活躍できる人材育成をめざす。</p> <p>「植物コース」では、草花を対象にして、培養技術を応用し希少植物の保護等、地域資源の保全に取り組むだけでなく、地域産業を担う汎用性を持った人材育成をめざす。</p> <p>③ アグリデザイン科</p> <p>「アグリコース」では、地域の先進的な農業経営等を実践的に学ぶことをとおして、農業関係の上級学校進学者や、地域の農業後継者など、多様な担い手を育成することをめざす。</p> <p>「フードコース」では、地元産の農産物を活用する食品製造を実践的に学ぶことをとおして、地域農業や地域食品産業を担うために必要な資質や能力を身につけ、食環境をデザインすることにより、地域で活躍できる人</p>

		<p>材育成をめざす。</p> <p>④ コミュニティデザイン科 「里山コース」では、農業・林業の持つ多面的な役割や、国土保全・環境創造・資源活用に必要な資質や能力を身につけ、森林活用、環境創造等、伊那谷保全のできる人材の育成をめざす。 「GLコース」では、伊那谷の農業やその関連分野の課題をグローバルな視点でとらえ、その課題とここで暮らす人々との関わり方を大学や関連機関等と連携して探究的に取り組むことで、世界的な視野を持って伊那谷をデザインできる人材の育成をめざす。</p> <p>(2) 学科の特徴</p> <p>① 1年次の共通科目「農業と環境」では、クラス単位で8コースの授業を体験するとともにプロジェクト学習の基本を学ぶ。2年次からは、学級集団とコースによる学びの集団を違え、人間関係の拡大による豊かな人間力の育成をめざす。</p> <p>② 農業の6次産業化、グローバル化が進む中で、多様な課題を科学的に判断し、伝える力が身につくように、基礎的基本的な知識・技能の習得のため、英語を中心とした普通教科の必修単位数を増やす。また、理科においては農業学習との関連を重視した授業展開をする。</p> <p>③ 様々な生命を育み、伝統産業を守る人や先進産業に挑戦する人など豊かな学びの機会に恵まれた伊那谷の資源を最大限に活かし自らをデザインし、地域をデザインできる人材を育成するために、産学官と連携した学び、地元住民との協働による学びを進め、グローバルな視点を持ち地域に社会に寄与する新たな農業高校をめざす。</p>
--	--	---

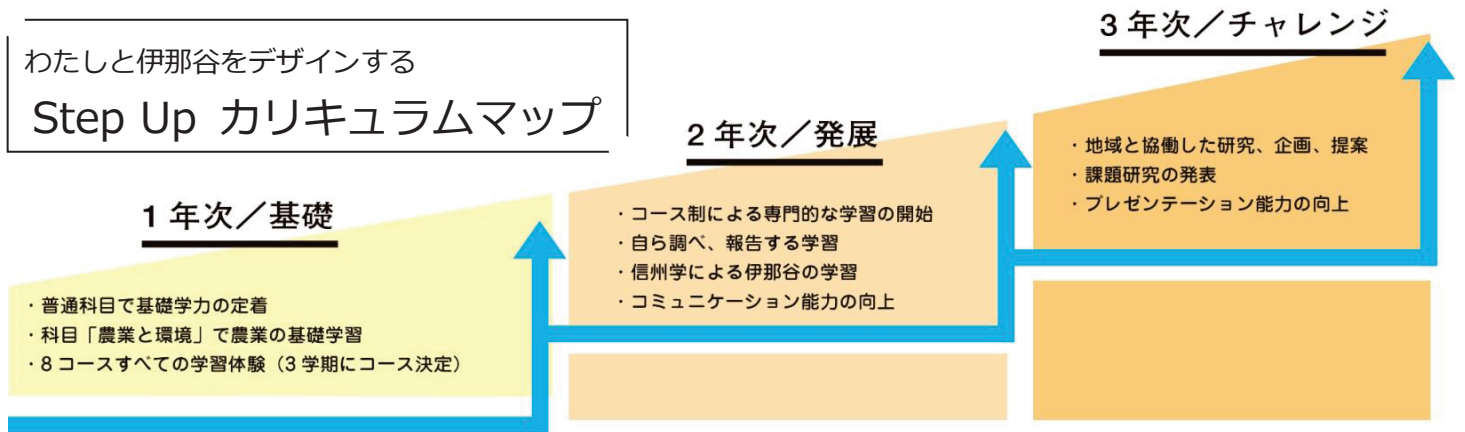
上農で、わたしと伊那谷をデザインする

わたしたちの暮らす伊那谷は、さまざまな生命を育む里地里山と、伝統産業を守る人や先進産業に挑戦する人とが交わる、豊かな学びの機会に恵まれたところです。上農では、生命に問いかけ、自分で考え、実践で表現する農業学習をとおして、自分の生き方をデザインしていくことのできる生徒を育みます。さらにその学習を自分にとどめることなく、伊那谷地域の方々との協働をとおして、伊那谷を一層活力ある地域にデザインする生徒を育てます。

わたしと伊那谷をデザインする 育むチカラ



わたしと伊那谷をデザインする Step Up カリキュラムマップ



わたしと伊那谷をデザインする 新 4 学科 8 コース



学校名	新学科名	新学科の概要
松本県ヶ丘	自然探究科 国際探究科 (総称 探究科)	<p>1 改編理由</p> <p>① 本校の英語科は、平成6年に設置され、英語によるコミュニケーション能力の育成や異文化理解教育の充実などにより、地域の期待に答えてきた。しかし、設置から23年を経て、社会が急速に変化する中、グローバル化にも対応しつつ、新たな社会を創造する力の育成が一層求められている。これまでの英語科の取組を活かしつつ、人文・社会科学分野から自然科学分野まで幅広い学びを可能にし、探究的な学びを積極的に展開することにより、生徒一人ひとりの可能性をさらに広げたい。</p> <p>② 新学科「自然探究科」と「国際探究科」では、各自の気づきや興味・関心に基づいて、主体的・協働的に課題に取り組み、その成果を社会に発信する。また、グローバルな視野と英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。こうした取組により、新たな社会の創造に貢献できる、高い志と専門性を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>③ 本校は近年、探究的な学びに先導的に取り組み、顕著な成果をあげている。平成28年度以降、探究的な学びの一環として「信州学」に取り組み、生徒の政策提案は、平成28年度内閣府主催の政策アイデアコンテストで全国最優秀賞を受賞した。また、平成28年度より県教育委員会の「探究的な学科」の研究指定校に指定されている。</p> <p>2 学科の内容</p> <p>(1) 学科の目標</p> <p>① 自然探究科 主として自然科学に係る様々な事象を主体的・協働的に探究する過程を通して、思考力、判断力及び表現力を総合的に育成し、高い志を持ち、自然科学等の分野でグローバルな視点に立って社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>② 国際探究科 主として人文・社会科学に係る様々な事象を主体的・協働的に探究する過程を通して、思考力、判断力及び表現力を総合的に育成し、高い志を持ち、人文・社会科学等の分野でグローバルな視点に立って社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 学科の特徴</p> <p>① 1年次は、学校設定科目「探究基礎」(信州学)により、地域及び長野県について課題研究を行い、探究的な学びの基本的な考え方と手法を学ぶ。2・3年次「探究実践」では、少人数のゼミ形式で、個人又はグループで課題を設定し、実験・観察・フィールドワーク等を通して調査・研究し、考察や成果を発表する。</p> <p>② 大学等外部機関との連携により、先端的な研究や地域の課題に関わることにより、知的好奇心を喚起し、創造性を育む。ICT機器の活用により、情報活用能力や発信力を育成する。さらに、海外研修を行い、現地の高校との交流を通して、グローバルな視点で探究的な学びを深化させる。</p>

		<p>③ 「自然探究科」と「国際探究科」はくくり募集とし、1年次は共通履修で、探究科としての学びの基礎を固めるとともに、各自の興味・関心、適性及び希望に基づいて学科を決定する。</p>
--	--	--

松本県ヶ丘高等学校は、「自然探究科」と「国際探究科」を設置します 信州・日本・世界の第一線で活躍する人材の育成

～高い志と豊かな教養を備え、地域に根ざしてグローバルに活躍する～



フィールドワーク



研究の成果を発表



ゼミ形式の探究活動

育てたい生徒像

高い志と専門性

知的好奇心に富み、未知の分野を切り拓く強い意志と専門性を持った生徒

課題解決能力

自ら発見した課題について、主体的・協働的に取り組み、その成果を広く発信できる生徒

グローバルな視野とコミュニケーション能力

高度な英語力と異文化理解力があり、他者と協働して問題解決に取り組める生徒

2・3年

自然探究科

自然科学分野の様々な事象を主体的・協働的に探究し、思考力、判断力及び表現力を育成

学校設定科目

「探究実践」

ゼミ形式で 個人・グループで
スパイラルに

- ◆ 課題を設定
- ◆ 実験・観察・フィールドワーク
- ◆ 考察・発見・まとめ・発表
- ◆ 新たな課題の発見

国際探究科

人文・社会科学分野の様々な事象を主体的・協働的に探究し、思考力、判断力及び表現力を育成

学校外との連携

- ◆ 信州大学
- ◆ 松本市など地元自治体
- ◆ 地元企業

海外研修

- ◆ オーストラリア研修旅行
- ◆ 現地でのフィールドワーク
- ◆ 現地高校生との交流

ICT機器の活用

- ◆ 各教室に電子黒板
- ◆ タブレット端末を活用

英語コミュニケーション能力の育成

- ◆ スピーチ
- ◆ ディベート
- ◆ プレゼンテーション

1年



タブレット端末を活用

興味・関心、適性及び希望に基づいて学科を決定

学校設定科目

「探究基礎」

- ◆ 信州学により、地域の歴史・文化・自然を科学的にとらえる
- ◆ 課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・発表の基本を身につける



英語ディベート

学校外との連携

- ◆ 信州大学
- ◆ 松本市、塩尻市等
- ◆ 地元NPO団体
- ◆ 長野県立図書館等

教科「情報」

情報リテラシーの習得

- ◆ 情報スキル
- ◆ 情報モラル
- ◆ プレゼンテーション能力